

ADP2-2

ダーバン・プラットフォーム 作業部会（ADP）の議論の概要

気候ネットワーク 伊与田昌慶

【地球温暖化の国連交渉 ボン会議報告会】

2013年7月2日（火） 於：東京ウィメンズプラザ



はじめに

- ドイツのボン・マリティムホテルにて、2013年6月3日～14日まで国連気候変動会議が開催された。
 - ADP2-2、SBI38、SBSTA38が同時並行で開催（ADP2-2は4日～13日までの開催）
 - 参加者数は、政府関係者1480人、オブザーバー900人、メディア30人
- ADP2-2は、4月～5月に開催されたADPの続き（第2回会合第2部）として開催された。

今回はADP2-2の議論の概要、現場の話題、日本の今後の政策への示唆などについてお話しします。



ADPとは

- 名称
 - 行動強化のためのダーバン・プラットフォーム特別作業部会 (Ad Hoc Working Group on the Durban Platform for Enhanced Action)
- ADP設立の決定文書 (Decision 1/CP.17)
 - 2°C or 1.5°C目標と現在の誓約水準のギャップに重大な懸念。
 - 全ての締約国に適用可能な、議定書、その他の法的文書か、法的効力を持つ合意成果 (a protocol, another legal instrument or an agreed outcome with legal force) をまとめるためのプロセス開始
 - COP21で「議定書、…」を採択してその作業を終える。その合意は2020年から発効し、実施される
 - 緩和の野心 (ambition) 強化についての作業計画を開始する。全ての締約国の可能な限り最高の緩和努力を確保するような野心ギャップを閉じうる行動の選択肢を探る

ADPとは

- 現在の議題
 - ワークストリーム1「2015年合意」
 - 2020年から実施する新枠組みについて2015年までに合意
 - ワークストリーム2「2020年までの野心強化」
 - 各国の現在の誓約と、「2℃目標」を達成するために求められる排出削減量のギャップを埋めるため、2020年までの緩和の野心を強化
 - （これら2つの議題は、交渉の現実の中では相互に関連）
- 期待と不安
 - 公平で、野心的で、法的拘束力のある新しい国際枠組みに向けた交渉の場
 - 「2009年合意」の失敗を繰り返さない
 - 再び、国際合意に向けて機運を高めることができるか
 - 議定書か、その他の法的文書か、法的効力のある合意成果か？（すでに「パリ議定書」の声も）

ADP2-2 ; 2015年合意

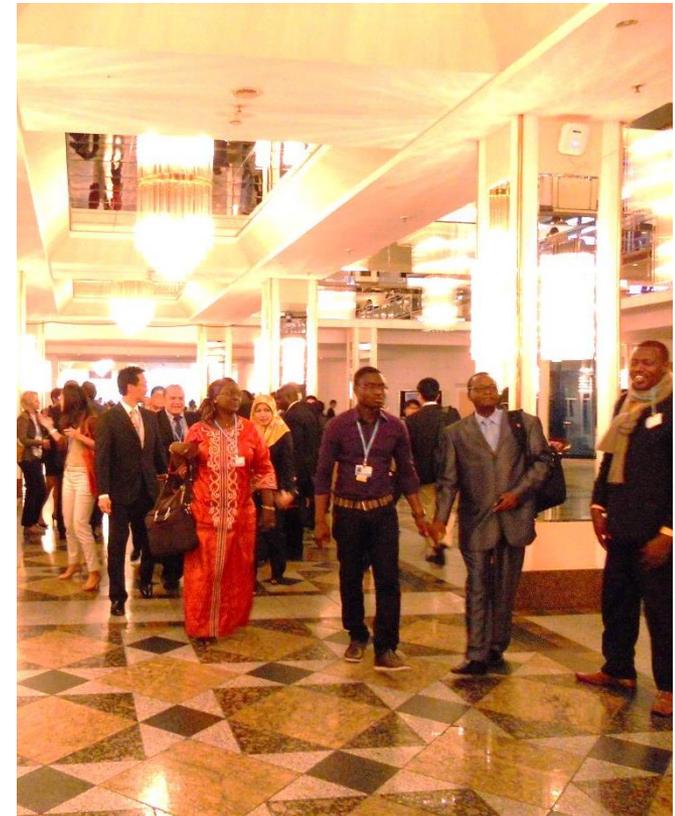
- ラウンドテーブル形式の議論、ワークショップ「2015年合意による適応の強化」を開催
- 主な論点と議論
 - 2015年合意の要素は何か？
 - 緩和、適応、損失と被害 (loss and damage) 、資金、技術、行動の透明性、能力構築、REDD+…
 - 各国の排出削減目標・行動をどう決めるのか？
(トップダウン・ボトムアップ・ハイブリッド)
 - 【米国提案】事前協議によって各国の「貢献」を引き上げ
 - 【EU提案】2014年に各国が自主約束を提出、2014～2015年にかけて最新の科学や衡平性の観点から事前レビューを行なって「2℃目標」に合致するよう目標を引き上げる。引き上げられた目標を2015年合意に位置づけ
 - 排出削減目標・行動を設定するための共通ルールとの関連
 - 途上国の立場は様々
 - 「京都議定書のアプローチを用いるべき」
 - 「約束の事前評価は先進国にだけ適用すべし」
 - 「野心強化のための“衡平性参照フレームワーク”を支持」

ADP2-2 ; 2020年までの野心強化

- ラウンドテーブル形式の議論、ワークショップ「2020年までの野心：エネルギー」を開催
- 主要な論点
 - どのように各国の野心を引き上げるか？
 - 京都議定書第2約束期間（KPCP2）で義務を持つ先進国のレビュー。KPCP2で義務を持たぬ国による誓約引き上げ。未誓約国による誓約。
 - HFC対策、化石燃料補助金の段階的廃止などのテーマ別対策
 - 野心引き上げは排出削減だけではなく資金などの分野でも必要と強調する途上国もあり
 - 国際協カイニシアティブ（ICI）をどう扱うか？
 - UNFCCC外の取り組み（モントリオール議定書など）は野心引き上げの可能性を持つ
 - 「各国の約束・行動強化の代わりになるものではない」
 - 今後の作業をどう進めるか？
 - 野心引き上げに向けたAOSIS提案

ADP2-2での合意（今後の進め方について）

- 「Decision1/CP.17の全要素の実施」
(FCCC/ADP/2013/L.2)
 - 2014年には追加会合を少なくとも1回開催
 - 2つのワークストリームについて各国・オブザーバーは意見を9月1日までに提出
 - 事務局は提出された意見をもとに10月30日までにADPにインプット
 - 緩和の便益についてのテクニカルペーパーの更新
 - 適応のための費用、便益、機会に関するテクニカルペーパーの作成
 - 事務局は既存の組織、仕組み、アレンジメントの下でのマンデートや作業の進捗を整理し、概観を示す



ADPの今後

	2013年	2014年	2015年
UN FCCC	<p>ADP意見提出</p> <p>テクニカル ペーパー等</p> <p>COP19</p> <p>野心強化の 選択肢を探求</p>	<p>2020年からの 排出削減目標案の 提出・事前レビュー？</p> <p>交渉テキスト案の 要素を検討</p>	<p>COP21</p> <p>新枠組み採択</p>
国際 動向	<p>IPCC AR5 WG1</p>	<p>IPCC AR5 WG2/3</p> <p>UNSG サミット</p> <p>IPCC AR5 SYR</p>	
日本	<p>2020年 目標？</p>	<p>IPCC 横浜会議</p>	

ボン会議を振り返って

- 今回のADPで何が進んだか？
 - まだ自由な意見交換の段階で、「中身」に関する決定はない。
 - 具体的な提案もあり、2015年に向けて進めるべき作業の大まかなイメージは少しずつできてきた。詳細はまだ議論が必要。
 - 各国の基本的な立場はこれまでと変わらず、「平行線」の声も。
 - ワルシャワ会議では、2014年以降の作業計画などについて議論する。—「集中モード」へスムーズに移行できるか？
 - ワルシャワでは、各国が2014年中に2020年以降の排出削減誓約を發表することに合意すべき (CANi)
- 現地での話題
 - 高まる危機感（大気中CO₂濃度400ppm超、ドイツ等の洪水、IEA報告書『エネルギーと気候変動の構図を描き直す』）
 - 2014年のCOP20/CMP10はペルーで、プレCOPはベネズエラで開催
 - 2013年9月のADP追加会合は開催されない見通し
 - SBIの停滞とSBSTAの進展
 - ワルシャワ会議に期待される成果は、損失と被害？ 資金？ REDD+？ メカニズム？

今後の展望

- 気候変動対策強化の機運；2014年は大切な1年
 - IPCC AR5の順次発表（2013年～2014年）
 - 各国トップによる政治的イニシアティブ
- 日本の現状と課題
 - 2020年までの目標 = ?、2020年以降の目標 = ?、計画 = ?、トップのイニシアティブ = ?、資金の貢献 = ?
 - COP19までに、25%削減目標をゼロベースで見直す
 - 中央環境審議会地球環境部会・産業構造審議会環境部会地球環境小委員会の合同会合で検討が行われているが…
 - “COP19までに新目標”をめぐる懸念
 - もし日本が2020年目標を引き下げてCOP19で発表すれば「野心引き上げ」の議論に水を差す
 - 「先進国が野心を下げるのに、なぜ途上国が上げなければならぬか」との反発を招き、「全員参加」を危うくする恐れ
 - 交渉の前進に貢献するには、早期に野心的な2020年以降の誓約を打ち出せるような検討と政策強化が必要。



ご清聴ありがとうございました。

ご質問・ご意見は気候ネットワーク
京都事務所の伊与田までお気軽にお寄せ下さい。

メール：iyoda@kikonet.org

電話：075-254-1011、FAX：075-254-1012

URL：<http://www.kikonet.org>

気候ネットワークは地球温暖化を防ぐために市民の立場から提案×
発信×行動するNGO/NPOです。気候ネットワークは多くの方々のご
参加・ご支援によって支えられています。どうか、ご支援をよろしくお願
いいたします。オンライン寄付・入会ページは次よりアクセスできます。

URL：<http://mp.canpan.info/kikonetwork/>

(右のQRコードからもオンライン寄付・入会ページにアクセスできます)

